

GERSTEL TD 3.5⁺/DHS 3.5⁺を用いた 2-Step MVMと GC-MSによるビール中香気成分の網羅分析

キーワード

ダイナミックヘッドスペース(DHS)、TD 3.5⁺、DHS 3.5⁺、2-Step MVM、ビール、香気成分、網羅分析

はじめに

GERSTEL社では、加熱脱着専用装置のTDS 3に加えて、3軸ロボット型多機能オートサンプラ MPS roboticシリーズへの拡張が可能な加熱脱着装置TDU 2を開発してきました。TDS 3では、長さ約 180 mm、充填剤量 180 mgの試料捕集管を用いるため、揮発性の高い(破過容量の小さい)成分や長時間捕集の応用に向いています。TDU 2では、MPS roboticシリーズとの組合せのため、TDS 3と比べると 1/3 のサイズ(長さ 60 mm、充填剤量 60 mg)の試料捕集管を採用しています。新たに開発したTD 3.5⁺システムでは、試料捕集管のサイズ変更により、TDS 3を上回る充填剤量(200/260 mg)を達成し、MPS roboticシリーズへの拡張も可能となりました。そのため、大量注入、HIT-SPME、HIT-HS、DHSなどにも対応可能です。DHSを行う場合は、MPS robotic^{PRO}とTD 3.5⁺専用のDHS 3.5⁺オプションを用います。ここでは、DHS 3.5⁺を用いた 2-Step MVMと GC-MSにより、ビール中の香気分析を行った例についてご紹介いたします。

詳細については、GERSTELバーチャル匂い分析ラボにユーザー登録の上、アプリケーションノート AN-J04/2020 をご覧ください。



MAKING LABS WORK

バーチャル匂い分析ラボ

